

(様式5)

調査報告書

| | |
|---------|--------------------|
| 訪問調査日 | 平成20年11月18日 |
| 調査実施の時間 | 開始9時30分 ~ 終了14時00分 |

| | |
|-------------------|--------------------------|
| 訪問先事業所名 (都道府県) | グループホーム たんぽぽの家 (鹿児島県) |
|-------------------|--------------------------|

外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を实践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を实践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | | |
|-----------------|----|-------|
| 評価調査員の氏名 | 氏名 | 藤田泰洋 |
| | 氏名 | 腰 高行 |
| 事業所側対応者 | 職名 | 管理者 |
| | 氏名 | 櫻木エミ子 |
| ヒアリングを行った職員数 2名 | | |

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月20日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|-------------|
| 事業所番号 | 鹿児島県指定第4679100190号 | | |
| 法人名 | 有限会社ウイル | | |
| 事業所名 | グループホームたんぼぼの家 | | |
| 所在地 | 鹿児島県徳之島町亀津122番地2 (電話) 0997-81-1249 | | |
| 評価機関名 | NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年11月18日 | 評価確定日 | 平成20年12月20日 |

【情報提供票より】(20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------|--------------|----------|
| 開設年月日 | 平成17年3月28日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 9 人 | 常勤7人, 非常勤1人, | 常勤換算8.7人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|---------|-------|--|
| 建物構造 | 木造 平屋造り | | |
| | 1 階建ての | 1 階部分 | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額) | 12,000 円 | その他の経費(月額) | 実費 |
| 敷金 | 有(円) - | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(30,000円) | 有りの場合 償却の有無 | 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 300 円 |
| | 夕食 | 300 円 | おやつ 100 円 |
| | または1日当たり | | 1,000 円 |

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

| | | | |
|-------|---------|---------|----------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 2 名 | 女性 7 名 |
| 要介護1 | 0 名 | 要介護2 | 0 名 |
| 要介護3 | 5 名 | 要介護4 | 3 名 |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | |
| 年齢 | 平均 87 歳 | 最低 78 歳 | 最高 100 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------|
| 協力医療機関名 | 医療法人愛郷会東天城クリニック、太歯科医院 |
|---------|-----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この度、行政から1ユニットの増設が許可され、地域の方々と共に喜びに溢れているホームである。地域に密着した支援をしており、入居者と地域の交流もスムーズになされている。施設長はじめ若手のスタッフが多く、明るく仲が良いので介護支援のあり方が、保守的にならずに、開放的で前に前にと進められている。運営理念の中核にある「ゆっくり のんびり 楽しく」を支援の規範として、それぞれの利用者が最高に尊厳と敬意をもって支えられている。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 外部評価結果について協議し改善に活かし、全ての項目について改善されている。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 評価の意義について、説明し全員で自己評価に取り組んでいる。全職員での自己評価後の会議を持つまでには至っていないが、外部評価結果については協議し、改善に活かしている。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議が定期的で開催され、オープンにいろいろな面から活発に協議されている。事業所内で起こった事故などの対策や、地域との交流のあり方など出された意見や要望事項が活かされて、サービスの向上に取り組んでいる。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族会を開催し家族の意見や要望を聞いている。また、面会の来訪時に意見や要望を聞くようにしている。出された意見等は運営に取り入れるようにしている。ホーム便りに、個別記事欄を設けて、当該入居者の暮らしぶり・健康状態・金銭管理状況を報告し不安への対応をしている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地域のボランティアの方々が毎週土曜日に、唄や体操の交流活動で来訪している。近隣の人が手作りのお菓子を差し入れてきたり、ホームの行事に参加したりして、交流は年々深まってきている。小中学生や幼稚園との交流もある。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 施設長が、開設時からの理念に、地域密着型サービスとしての項目を盛り込んだ新たな提案をして、職員みんなで理念を作り上げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念をホーム内の事務室やホール、玄関口など目立つところに掲示してある。管理者・職員共に業務実施上の基本として、常に振り返りながら理念の実践に取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域のボランティアの方々が毎週土曜日に、唄や体操の交流活動で来訪している。近隣の人が手作りのお菓子を差し入れてきたり、ホームの行事に参加したりして、交流は年々深まってきている。小中学生や幼稚園との交流もある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価の意義について、説明し全員で自己評価に取り組んでいる。全職員での自己評価後の会議を持つまでには至っていないが、外部評価結果については協議し、改善に活かしている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議が定期的開催され、オープンにいろいろな面から活発に協議されている。事業所内で起こった事故などの対策や、地域との交流のあり方など出された意見や要望事項が活かされて、サービスの向上に取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 町の担当者とは、連携をとって研修会の案内など情報収集に当たっている。隣接の他の役場職員とも連携を持っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | ホーム便りに、個別記事欄を設けて、当該入居者の暮らしぶりや、血圧・脈拍・受診時の状況などの健康状態や、物品の購入状況等の金銭管理状況を報告している。職員の異動は来所時に紹介している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 組織としての家族会は無いが、折々の行事の時に家族会を開催し、ホームの運営状況などを報告すると共に、家族の意見や要望を聞いている。また、面会の来訪時に意見や要望を聞くようにしている。出された意見等は運営に取り入れるようにしている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の採用については、ボランティア活動でホームに馴染みのある人を採用するなどの配慮をしている。できるだけ、職員間の人間関係にも配慮し働きやすい職場作りをしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 資格取得の支援をするなど、職員の資質向上に取り組んでいる。関係機関主催の研修に参加し、復命研修もしている。また、特定の人だけに偏らないように派遣研修の順番も計画している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 奄美地域グループホーム研修会に所属し、研修の折に、管理者・職員の交流をしている。また、近くのグループホームと交流行事を持ち、職員間の協働活動により、サービスのあり方を学びあい、質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居希望者や家族に、ホームへの見学や体験参加などを通じて、顔なじみになり、納得してサービスの利用に入るようにしている。また、ホーム側から訪問し、関係作りもしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 島唄の歌詞や、唄にまつわる物語を教えてもらったり、季節の行事食の意味や食材、作り方などを教わったりしながらの作業の中で、共に支えあって楽しい時を共有している。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 自己表現ができ難い人が増えてきているが、職員は本人に寄り添い、ささやかなしぐさや表情などから、意向や要望を把握するようにし、思いや意向に沿った支援をするように努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族の意向を聞くと共に、日常の支援の中から本人の意向や思いを受け止め、担当者会議で検討して介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月ごとに実施して計画に反映している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 状況の変化時には、本人や家族・関係者と協議して、評価の見直しをし、状況に即した計画を作成している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 受診の支援や、理美容院の利用・自宅訪問・外泊・墓参などの支援をしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族と話し合い、本人や家族の希望に即した医療が受けられるように支援をしている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期に対しても、ホーム側で対応していく方針を入居者や家族にも伝えている。医療連携についての契約を推進中であり、充実した体制作りを検討中である。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 食事・排泄・入浴・整容等の支援をする際に、誇りやプライバシーを傷つけないようさりげなく支援をしている。職員は採用時に守秘義務の誓約をしている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々人の希望や体調により、状況に即して起床・入浴・食事・就寝などその人のペースに合わせて支援している。ホームの基本的な流れに個人を合わせるような支援をしないことが、スタッフの行動の中に出来あがっている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者から好みや希望を聞いて献立を作り、調理の準備などそれぞれができることを行い、職員も一緒になって会話を交えながら楽しい食事になるように支援している。笑い声のあるにぎやかな食事風景となっている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | シャワー浴、足浴なども含め希望の時に入浴できるように支援をしている。希望者には入浴剤の使用もしている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 調理の下作業・洗濯物干し・洗濯物たたみなどの役割ができるように支援したり、島唄・踊りなどの楽しみごとや、散歩・買い物・ドライブなどの気晴らしの支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 散歩や買い物、ドライブなど外出への支援をしている。日常的に食材の買出しなど近所のスーパーマーケットまで一緒に出かけている。また、花見やみかん狩り、祭りなどにも積極的に出かけている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかける弊害を十分理解して、入居者は自由に出入りできるように支援している。自由に外出しても、気配りや近隣への協力依頼など様々な工夫をして無事故への配慮も尽くしている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消火・避難訓練は消防署の協力を得て実施している。地域の住民に協力や参加も呼びかけている。台風などの災害時に備えて、対応もしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士のアドバイスをもらい、栄養バランスのある食事を提供している。水分の摂取にも配慮し、必要な人については摂取量の記録もしている。健康状態や身体状況に応じた調理方法とより細やかな支援をしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関・ホール・廊下・洗面所など広くゆったり広々とした空間に、適所にベンチなどが置かれて、季節の花が活けられ、運営理念の「ゆっくり・のんびり・楽しく」生活できる共用空間となっている。清潔感もあり、サトウキビ畑から吹き込む風も心地良い。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッドや家具などは、原則として各居室にはホーム側で事前に配置されていないので、自宅から馴染みの寝具・仏壇・生活用品などや、子ども・孫からの贈り物などを配置して居心地よく安心して暮らせるような居室となっている。 | | |

